

日高山脈襟裳十勝国立公園の指定概要

1. 背景

本国立公園の前身である「日高山脈襟裳国定公園」は昭和56年に指定されている。その後、環境省が平成19～22年にかけて実施した国立・国定公園総点検事業において、当該国定公園を含む「日高山脈・夕張山地」を国立公園の新規指定又は国定公園の拡張候補地とした。また、令和元年には、関係13市町村長より当該国定公園の国立公園指定に関する要望書が提出された。

環境省としては、自然環境等の調査結果等を踏まえ、当該国定公園及びその周辺地域を国立公園として新規指定する方針とし、令和2年より、指定に向けた地域や関係機関との調整を行ってきた。

パブリックコメント、各省調整等を踏まえ、令和6年2月22日に中央環境審議会自然環境部会へ報告、5月22日に同審議会へ諮問、5月23日に答申を得た。

2. 区域概要

- ・ 日高山脈は、新第三紀以降に大陸プレート同士の衝突によって生じた南北約140km、東西約30kmの大起伏山地である。
- ・ 稜線部には、カール、ホルンといった氷食地形と高山植物や雪氷とが織りなす山岳景観がみられる。稜線部から山麓部にかけては、自然度の高い森林や河川が存在しており、シマフクロウやクマタカ等の生態系上位種や、特異な地質や環境に対応した固有種及び希少種の生育地等となっているほか、優れた森林景観及び渓谷景観を有している。
- ・ 日高山脈が南に延びて太平洋に達する襟裳岬は、海食崖、岩礁を主体とした海岸景観が優れており、海岸部には海成段丘も発達している。
- ・ 日高山脈の南端に位置するアポイ岳は、海拔810mという低山ながら夏の低温などの厳しい気象条件と「幌満かんらん岩体」と呼ばれる特殊な超塩基性地質の影響により、固有種の宝庫となっている。
- ・ 平野部から日高山脈を眺望した際には、延々と連なる印象的な山並み景観が見られ、「原風景」として地域の人々に深く意識されている。また、日高山脈はアイヌのイオル（伝統的生活空間）としても重要であり、アイヌの精神文化の一つとしてカムイ（アイヌの神）である霊峰ポロシリ（幌尻岳）等への崇拜など山脈部から山麓部まで一体となった文化景観としての価値も高い。

3. 指定理由

本国立公園は、非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原生的な自然林生態系が広がる風景を風景型式としている。当該風景型式の中でも、本国立公園の風景は、地殻変動を受けて形成された山脈が内陸部から海まで延々と連なる雄大さと、その山脈が原生性を有する自然状態のまま我が国最大規模のまとまりを持って存在する点において我が国を代表するに足りる傑出した自然の風景地となっている。

4. 公園区域

日高山脈一帯、アポイ岳周辺、豊似湖周辺、襟裳岬やその周辺海域等

面積：245,668ha（陸域）（国有地：213,256ha、公有地27,745ha、私有地等4,667ha）
6,510ha（海域）

5. 保護規制計画

日高山脈の主稜線一帯、アポイ岳の高山植物群落地域及び幌満ゴヨウマツ自生地等、高山植生、針葉樹林、広葉樹林又は針広混交林で原生的な状態を保持している地域を、特別保護地区に指定し、本国立公園の核心部として厳重な保護を図ります。

<参考資料>

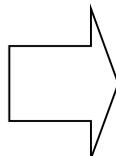
(参考：旧国定公園と本国立公園の面積の変化について)

【日高山脈襟裳国定公園】

特別保護地区	19,496 ha
第一種特別地域	51,413 ha
第二種特別地域	18,387 ha
第三種特別地域	13,733 ha
普通地域(陸域)	418 ha
普通地域(海域)	6,108 ha
合計(陸域のみ)	103,447 ha

【日高山脈襟裳十勝国立公園】

特別保護地区	73,743 ha
第一種特別地域	30,329 ha
第二種特別地域	35,102 ha
第三種特別地域	55,101 ha
普通地域(陸域)	51,392 ha
普通地域(海域)	6,510 ha
合計(陸域のみ)	245,668 ha



6. 利用施設計画

本国立公園は、登山や山麓部の自然探勝、車道等からによる山岳・海岸景観等の展望利用が主な利用形態です。利用施設の配置及び整備については、既存の施設を中心とした、園地、宿舎、避難小屋、野営場、スキー場、博物展示施設、車道、歩道について、必要最小限の計画とします。【単独施設(計20箇所)、車道(10路線)、歩道(18路線)】

7. 関係市町村

【北海道】帯広市、日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町、清水町、芽室町、中札内村、大樹町、広尾町

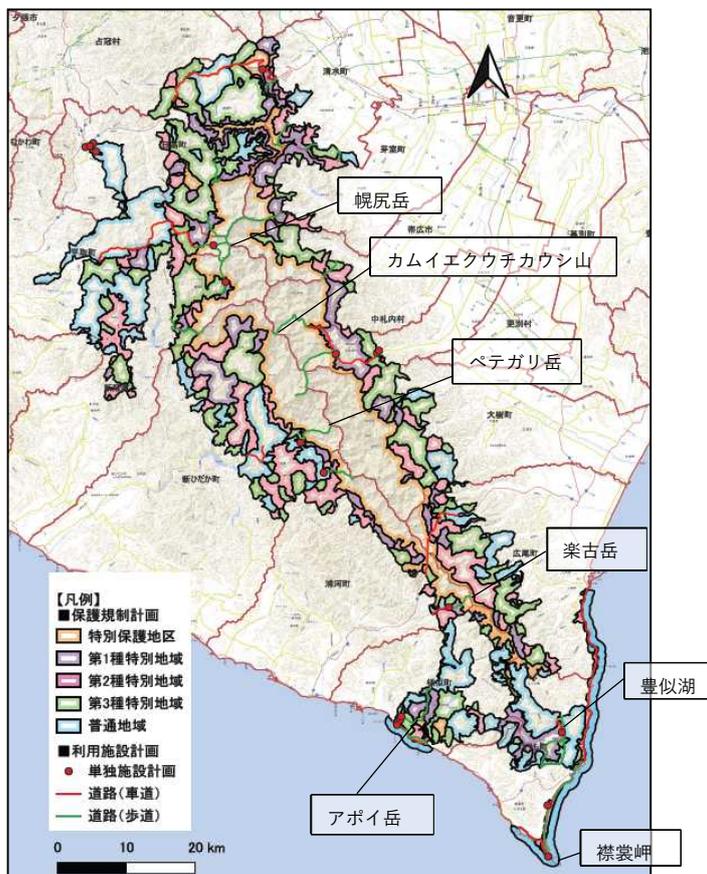
日高山脈襟裳十勝国立公園



日高山脈(中央から北方面)



七つ沼カール



保護規制計画及び利用施設計画